雪底

宮坂恒子句集

miyasaka tsuneko

ふらんす堂

雪底に母なる水のぬくもりて

校門のどの白息も熱く来る

生徒らの胸にかがやけ寒昴

合格の目の近づいてまぶしかり

転任の鍵渡す日の風ぬくし

紐しめてまなざし遠き遍路かな

束ね髪きりつときまり更衣

雪山の襞なすうす日明りかな

剪定の一枝をとらふ揺れ梯子

落葉して朴長身をととのふる

一鍬に奔流となる落し水

鉄棒の下の窪みを蹴つて春

八ヶ岳の風満身に青き踏む

朧夜の我に定年見えかくれ

点さねば隣家が遠し雪の村

千の鴨翔ちて湖尻の窪みけり

アルプスへ野を引き締むる植田かな

万緑の山が山押す奥信濃

グライダーは青年の羽山若葉

わすれゆく身軽さもあり蝶の空

春の海ときに鴎になりたくて

髪切つてピアスを選ぶ春隣

みなちがふ瞳の中の雲の峰

つつぱりにやさしき良夜もどりけり

子らと目を合はせ新任教師たり

辛口の評掻き氷荒くづし

もうひとりの自分が着たき水着なり

句集　雪底

2003 年 4 月 22 日　発行

著　者　宮坂恒子

発行所　ふらんす堂

PDF 製作　俳誌の salon